

令和5年第5回大野城市議会 12月定例会一般質問通告

○本会議（3日目）一般質問

令和5年12月13日（水） 午前9時30分（於 議 場）

議員氏名	件 名
平田 不二香	1. 循環型社会の推進を目指して (1) 本市の「ゼロカーボンシティ大野城」宣言について (2) 家庭から出る一時多量ごみについて
福澤 信光	1. 教育現場におけるセクハラ等のハラスメントに対する未然予防の徹底 (1) 実際に近隣市であった事例をもとに質問する。概要として、現在中学校3年生の女子生徒が2年生の時から、担任の男性教諭より、2人きりになる状況を計10数回、3年生になってからも度々あり、先生から手を握られる等され、最終的にその女子生徒は先生が怖くなり不登校になった。その後、保護者が校長先生に一連の経緯を含め相談をしたが、約1か月なんの進展も報告も得ることが出来ず、結果、その女子生徒は精神的な病により、通院することになり、現在も苦しんでいる。実際に大野城市で起こった事柄ではないが、今後、同じような事が起こる可能性があるかもしれない。何か起こってから対応するのではなく、未然に防げること、また、もしも最悪の事態になった場合のきめ細かな対応を用意することが大切だと考える。そこで、まず初めに大野城市の教育現場において、先生と生徒が2人きりになる状況が起こりえるのか伺う (2) 担任の先生を学校へ来させないでほしいと訴えるが、それは出来ないと聞いた。このような場合、できない理由としてどのようなことが考えられるか (3) この様な事態が起き不登校になった場合の学力保障に関してどのような対応が考えられるか (4) 教育現場で、各種ガイドラインがあると思うが、その中にスクールセクハラもしくはセクハラ防止に関するガイドラインが現在存在するのか。また、本市独自のガイドラインを作成しているのか (5) セカンドハラスメント等の2次被害が起こった場合の対応はどのようなことが考えられるか (6) 先生が生徒に対して行うセクハラ等のハラスメントについての研修を行っているのか (7) 福岡県に「福岡県いじめレスキューセンター」が設置されているが、どのような目的で設置されているのか (8) 本市には県が設置しているような第三者の窓口として、子どもに対するセクハラ等のハラスメントに対応する相談センターがあるのか (9) 未然予防の精神を今一度引き締めなおし、もしも、本市で同じような出来事が起きた場合に対応できる術を取り入れることが重要だと思う。これからの子どもたちの成長を見守り、応援していく立場として、今後の取り組みを教育長に伺う
岡部 かおり	1. 公園の整備と維持管理について (1) 錦町公園について (2) 地域防犯基本計画の中に市内の利用が多い公園内に防犯カメラを設置する計画はあるか

	<p>2. 市内小中学校の水道蛇口ハンドルについて</p> <p>(1) 小中学校の蛇口ハンドルは、どのような形状か</p> <p>(2) 小中学校内の蛇口ハンドルを、手回し式からレバー式に変えた学校の他自治体の状況は</p> <p>(3) 水道の蛇口ハンドルをレバー式に変更した場合の費用は</p> <p>(4) 変更した場合のメリットとデメリットを伺う</p> <p>(5) 市内の小中学校の蛇口ハンドルを、手回し式からレバー式に交換する計画はあるか</p>
森 和也	<p>1. 災害に強いまちづくり</p> <p>(1) 急傾斜地崩落危険箇所の対策について</p> <p>(2) 河川整備について</p> <p>(3) 農業用ため池について</p> <p>(4) 避難所の整備について</p> <p>(5) 防災訓練と自主防災組織・防災士連絡協議会について</p>
河村 康之	<p>1. お互いの違いを認め合い、共生していくインクルーシブな社会を目指して</p> <p>(1) 本市のインクルーシブ社会への取組みと現状について</p> <p>(2) インクルーシブ公園や遊具の設置について</p> <p>2. 学校での福祉教育の実態とその考え方、推進について</p> <p>(1) 学校での福祉教育の実態について</p> <p>(2) 本市の福祉教育を支える様々な団体と、地域の協力について</p> <p>(3) 2025 年、デフリンピックの東京開催を機に本市でも更なる福祉教育の推進を</p>
中村 真一	<p>1. 大野城市の人口動態について</p> <p>(1) 本市の過去3回分の国勢調査の人口推移について</p> <p>(2) 人口が今まで増加している要因とは何か</p> <p>(3) 本市が今までに取り組んできた人口減少対策や少子化対策にはどのようなものがあるか</p> <p>(4) 今後の人口の推移について</p> <p>(5) 将来的な人口減少対策や少子化対策としてどのような施策が考えられるか</p>
永利 恭子	<p>1. ジェンダーギャップについて</p> <p>(1) 非営利財団「世界経済フォーラム」が2023年6月21日に発表したわが国のジェンダーギャップ指数は、146か国中125位と低く、前年度より順位がさらに下がっている。このことをどう考えるか。また、順位が下がった理由をどのように分析しているか</p> <p>(2) ジェンダー平等、男女共同参画はなぜ必要と考えるか</p> <p>(3) 本市正規職員の男女比はどうなっているか</p> <p>(4) 本市の幹部（部長級）職員の男女の状況はどうなっているか</p> <p>(5) 男女間の格差を改善するための積極的改善措置として本市はどのような措置をとってきたか</p> <p>(6) 市長は18年間、格差是正策として具体的に何をやってきたのか</p> <p>(7) 市職員における女性管理職（部長・課長級）の割合の目標値18%は少ないと考えるがいかがか</p> <p>(8) 今後改善に向けて具体的にどのような取り組みをおこなっていくか</p> <p>2. 本市の「職員の給与の男女の差異の情報」公表について</p> <p>(1) 女性活躍推進法に基づく「職員の給与の男女の差異の情報」において、本市の全職員に係る男女の給与の差異は63.1%と近隣他市に比べて</p>

も低い割合になっている。なぜか

- (2) 非正規職員が増えたのはいつ頃からか
- (3) 非正規職員の職種は
- (4) 非正規職員の処遇改善を行う必要はないか
- (5) 正規職員の採用計画を前倒しするなどして非正規職員を正規職員に置き換えていくことはできないか
- (6) 専門職の正規化や、任用期間の見直しなどで安定雇用につなげることはできないか

3. 若い世代が置かれている現実の把握について

- (1) 神奈川県横須賀市長、滋賀県東近江市長、愛知県名古屋市長などの問題発言や埼玉県の虐待禁止条例改正案取り下げなどが続いている。市民から批判を受ける背景には、世代の違いやジェンダーの差異により首長や議員の認識と現実のずれが生じているためではないかと思われる。本市において、20代、30代の若い世代、子育て世代、就職氷河期世代などが置かれた現実について、どのような方法で、どう把握し、それをどのように政策につなげているか
- (2) 本市中学校の給食についてアンケートを行うと聞いている。
- (3) アンケートやパブリック・コメントだけではなく、当事者の生の声をもっと聞くべきではないか。市民が納得する行政を行うためには、市民との対話が大切と思うがいかがか

4. 職員の育成について

- (1) これからの地方自治体に求められる役割をどう考えているか。本市が必要とする職員はどういうものか
- (2) 本市の新規採用職員の研修先に自衛隊があるというのは本当か。本当だとすれば、必要とする職員像と異なるのではないかと考えるがいかがか
- (3) 保育所や介護施設など、対人コミュニケーション能力や臨機応変な対応を求められる職場を研修先にしてはどうか

○本会議（4日目）一般質問

令和5年12月14日（木） 午前9時30分（於 議 場）

議員氏名	件 名
河野 敏生	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大野城市立小中学校の不登校児童生徒数が非常に多い問題について <ol style="list-style-type: none"> (1) 大野城市立小中学校の児童生徒の不登校の防止について (2) 不登校児童生徒の進路保障（社会的自立）のための取組について 2. 大野城市のひきこもり問題について <ol style="list-style-type: none"> (1) 義務教育を卒業した子どもの中で、学生時代不登校だった子どもの進路獲得と社会的自立の現状について (2) 子どもだけでなく広い年齢でとらえた際の大野城市のひきこもりの現状と効果的な支援について 3. 教職員不足問題について <ol style="list-style-type: none"> (1) 大野城市の公立小中学校の教職員足りない問題について
松崎 百合子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人児童生徒・日本語を母語としない児童生徒の受入れ、および日本語学習支援について <ol style="list-style-type: none"> (1) 外国人児童生徒・日本語を母語としない児童生徒の受入れの現状と課題について、見解を教育長に伺う (2) 日本語の支援が必要な児童生徒数の推移について (3) 本年11月15日現在で、日本語が初級レベルの少数言語話者3名、中国語話者、フィリピン語話者の生徒、計5名が在籍している中学校があります。その生徒たちへの教育の現状と課題はいかがでしょうか (4) 学級生活での学びとインクルーシブ教育について (5) 日本語支援ボランティア派遣事業で対応できる言語は、どのような言語でしょうか。通訳者が少ない言語の場合、どのような対策が考えられますか (6) 外国人児童生徒・日本語を母語としない児童生徒の受入れについての指針（マニュアル）が必要と考えますが、市の考えはいかがでしょうか（参考：文部科学省「外国人児童生徒受入れの手引—2019年3月」） (7) 指針には、教室での授業、生徒間の交流など日本語習得について明記し、インクルーシブ教育を進めていただけないでしょうか (8) 日本語指導担当教師の活動内容や資格経験、勤務時間、増員の計画はいかがでしょうか (9) 日本語学習支援の資格や経験のある支援者の登録と有償での派遣制度が必要と考えますが、いかがでしょうか (10) 子どもの場合、生活言語は短期に習得可能ですが、授業や進学等に必要学習言語能力は5年以上必要といわれています。また、文科省の2016年度の調査でも、日本語指導が必要な生徒の進学率は全体に比べて40～50%低く、中退率は7倍以上であるため、地域日本語教室等と連携し義務教育終了後も支援が必要と考えますが、どのような支援があるでしょうか (11) 教材や指導法、適応支援や国際理解等について、関係者による定期的な研究会の開催が必要と考えますが、いかがでしょうか (12) 一人ひとりの子どもについて、担任、日本語指導教員、日本語支援員、スクールソーシャルワーカーを含む支援者会議が必要と考えますが、いかがでしょうか (13) 市職員、学校の管理職、教職員、児童生徒、および地域の理解が必要と考えますが、研修会等の計画はいかがでしょうか

	<p>2. 公園のトイレの洋式化およびバリアフリー化について</p> <p>(1) 本市において、トイレが設置されている公園はどんな公園があるでしょうか。また、設置の基準はどうなっているでしょうか</p> <p>(2) 一般のトイレで和式しかない公園、またバリアフリートイレがない公園の現状はいかがでしょうか</p> <p>(3) いこいの森公園では、利用についてのアンケートをされているでしょうか。トイレについての要望はいかがでしょうか</p> <p>(4) 高齢者や子どもにとって和式トイレの使用は難しく、トイレの洋式化、および誰でも使いやすいバリアフリートイレの設置、また老朽化したドアなどの改修が必要と考えます。予算もかかりますが、公園トイレの点検と改修の計画が早急に必要と考えますが、いかがでしょうか</p>
<p>原田 真光</p>	<p>1. 保育所のおむつの取扱について</p> <p>(1) 全国の自治体でおむつのサブスク（サブスクリプションの略。サブスクとは月額・定額で商品やサービスを利用できるしくみのこと。）が広がっている</p> <p>2. 公民館活動におけるスマートフォン利活用について</p> <p>(1) 各区の公民館において、区の公式 LINE や子ども食堂等、スマートフォンを利用する機会が増えているが、公民館活動でも個人のスマートフォンを使用していると聞く。本市は現状をどのように考えているのか</p> <p>(2) 市と公民館との連絡手段はどのような方法があるのか</p> <p>(3) 公民館活動に際し個人の負担を減らし、また市と公民館との更なる連携を図るために、市から各区の公民館へスマートフォンの貸与等が必要だと考えているが本市の見解は</p> <p>3. JR九州鹿児島本線の踏切について</p> <p>(1) 令和5年9月定例会においてJR九州鹿児島本線の踏切について一般質問を行ったが、その後どのような対応をされたか</p>
<p>大塚 みどり</p>	<p>1. 切れ目のない子育て・教育支援について</p> <p>(1) 乳幼児健康診査について</p> <p>(2) 就学時健康診断について</p> <p>(3) 小中学校の特別支援学級について</p> <p>(4) 本市は就学前に法的根拠をもって実施している健診は3歳児健診のみである。幼児期の発育・発達は、ひとり遊びから集団遊びへと変化し、行動面、運動面、言語面の課題は3歳児健診では見えにくいことが多い。発達障がいの早期発見、早期支援への先手が打てる5歳児健診の実施を進めていただきたい。本市の見解を伺う</p> <p>2. 切れ目のない市民の健康支援について</p> <p>(1) 成人用肺炎球菌ワクチンについて</p> <p>(2) 帯状疱疹ワクチンについて</p> <p>(3) 子宮頸がんワクチンについて</p>
<p>平井 信太郎</p>	<p>1. 小中学校の不登校問題について</p> <p>(1) 不登校児童生徒の現状について</p> <p>(2) 学校からの不登校児童生徒への支援について</p> <p>(3) 不登校対応の民間団体や施設等への支援について</p> <p>(4) 本市の今後の不登校問題の対応は、どのように考えているか教育長の見解を問う</p>

	<p>2. 大雨での河川溢水による洪水被害について</p> <p>(1) 平野川洪水被害について</p>
井福 大昌	<p>1. 市民生活を守るための物価高騰対策</p> <p>(1) 現在、国が行っている物価高騰対策に関して市はどのように考えますか</p> <p>(2) 本市が本年1月から実施したエコ家電買換え補助金・学生通学費補助金について市民からの反応や感想があれば教えてください</p> <p>(3) 本市が本年7月から実施している物価高騰対策である全世帯への下水道基本料金の免除について市民からの反応や感想があれば教えてください</p> <p>(4) 前述のエコ家電買換え補助、通学費補助、下水道基本料金免除について、それぞれの実施に至った経緯と選定方法を教えてください</p> <p>(5) 今後、物価高騰対策として国からの支援、市独自の支援の予定はありますか</p> <p>(6) 今後、市民の生活を守る物価高騰対策は市民が実感できるものや、低迷している景気回復のカンフル剤にしていくべきかと思われませんが、お考えなどおきかせください</p>
山上 高昭	<p>1. 大野城市職員の働き方について</p> <p>(1) 大野城市の目指すべき職員像について</p> <p>(2) 働き方について</p> <p>(3) 職員の採用について</p> <p>(4) 職員の病気休暇休職状況について</p> <p>(5) 職員の退職状況について</p> <p>(6) 技術や知識の習得について</p> <p>(7) 人事評価について</p>